令和8年度

# 御所小学校
# 「学力向上実行プラン」

**学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標**

自分の思いや考えを主体的に表現し合うことのできる児童の育成を目指した指導の充実

**【各校の取組状況の把握について】**

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を設け，取り組み状況の把握を行う。

**◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進**

**（１）知識・技能の習得**

| 児童生徒の状況（○よさ・●課題） | 具体的目標（目指す子供の姿） | 具体的方策（教員の取組） | 中間期の見直し | 達成状況（評価） | 次年度における改善事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| ○漢字や計算など、基礎・基本的な問題に対しては前向きに課題に取り組むことができる。<br>○学校での読書をする様子が多く見られる。<br>○継続的な作文指導により、長めの文章でも抵抗なく書くことができてきている。<br>●学力や語彙力に個人差があり、習得が不十分な部分がある。<br>●学習したことを次の時間で忘れてしまい、活用ができない。 | ①基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、新しい学習で活用することができる。<br><br>②語彙力を増やすとともに、進んで自分の思いや考えを書いたり、話したりすることができる。 | ①小テストや前単元の復習を行う機会を確保し、基礎的基本的な知識・技能の定着を図り、実際に活用する機会を設ける。<br><br>②児童の簡略的な表現を具体化させたり、考えの背景にある理由を語らせたりする場を多く設定する。これにより、自身の思いを言語化する機会を確保し、多様な表現方法の獲得や語彙力の拡充へとつなげる。 | | | |

**（２）思考力・判断力・表現力等の育成**

| 児童生徒の状況（○よさ・●課題） | 具体的目標（目指す子供の姿） | 具体的方策（教員の取組） | 中間期の見直し | 達成状況（評価） | 次年度における改善事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| ○タブレットを活用したり、絵や図を使ったりなど表現方法を工夫することで自分の考えを表現することができている。<br>○文章同士のつながりを接続言葉を使って表現できている。<br>●決められた文字数で文章を組み立てることが苦手。<br>●文章を話し言葉で書いている児童が多い。<br>●答えを導くことができるが、解き方の説明をすることに苦手意識がある。 | ①自分の考えを分かりやすく、筋道立てて文章に表すことができる。<br><br>②体験を通して気付きや疑問をもち、伝え合いながら学ぶ。<br><br>③問題の解き方を考え、説明することができる。 | ①例示を示し、書く活動でも話す活動でも筋道を立てて表現する場を多く設ける。<br><br>②疑問を価値付けする。また、考える時間を保障し、思考を促す問い返しを行う。<br><br>③説明の場を数多く設ける。交流の規模を個人からペア、グループ、全体へとスモールステップで広げることで、子どもたちが安心して自分の言葉で発表できる環境を整える。 | | | |

**（３）主体的に学習に取り組む態度の育成**

| 児童生徒の状況（○よさ・●課題） | 具体的目標（目指す子供の姿） | 具体的方策（教員の取組） | 中間期の見直し | 達成状況（評価） | 次年度における改善事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| ○興味・関心が高い学習内容に対しては、主体的に学習に取り組んだり、進んで発表したりすることができる。<br>●決められたことにのみ取り組み、自分の課題を見つけて探究したり、他者との学び合いを通して、自らの学びを深めようとする姿勢が低い。<br>●自分事として学習を捉えられていない。<br>●メディアを使用する時間が長い児童の割合が多く、振り返りを行っても形式的になりつつある。 | ①教師の支援のもと、子どもが課題を設定し、主体的に粘り強く課題に取り組むことができる。<br><br>②メディアの使い方を自ら振り返ることができ、時間やルールを決めて正しく活用することができる。 | ①児童の興味・関心を喚起する導入の工夫や、多様な小ステップの活動を取り入れる。これにより、児童の集中力と意欲を持続させ、主体的に学び続けることができる授業づくりを推進する。<br><br>②メディアの利用ルールに関する評価項目を細分化し、児童が自身の「できている部分」を肯定的に捉えられるようにする。これにより、主体的にルールを遵守しようとする意欲を喚起する。さらに、保護者による見届けを必須とすることで、家庭内でメディアの利用状況を定期的に振り返る機会を創出する。 | | | |